

困難と言われていた「酪農」と「障がい者」がパートナーシップ！ 有限会社仁成ファーム(釧路市) 音羽協働センター(釧路市)



作業の合間に牛と触れ合う障がい者

【組織等の概要】

仁成ファーム

- 代表取締役：樋口 英樹
- 常務取締役：佐藤 昌芳
- 従業員：80名
- 乳牛飼養頭数：2,400頭
(うち経産牛:1,500頭)

※2022年10月20日時点

【組織等の概要】

音羽協働センター

- 代表：梶野 豊
- 職業指導員：3名
- 生活支援員：1名
- 賃金向上達成指導員：1名
- 受入れ障がい者：14名

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 牧場の規模拡大に伴い、搾乳室清掃作業の外部委託化を検討したが、求人を行っても人が集まらなかった。
- ◆ 「農福連携」を知り、農業改良普及センターや市役所等に相談。その中で梶野氏(現在の音羽協働センター代表)と出会い、酪農現場で障がい者の労働内容について検討を重ねた。
- ◆ 梶野氏が平成29年11月に音羽協働センター(就労継続支援A型)を設立し、受入れを開始。
- ◆ 作業ごとに指導員1名が同行し、障がい者はシフト制で365日毎日10名程度を受け入れている。

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 当初は、時間内に全ての作業を終えることが難しかった。
⇒曖昧だった作業方法や手順を明確化。受入れ側も長い目で習熟を見守った。
- 一連で行う作業が、障がいの度合いによっては理解が難しい。
⇒作業を分割・マニュアル化し、出来る人が出来る作業を行うスタイルに変更。
- 指導員は酪農作業経験がなく、障がい者への作業指導が困難。
⇒新たに雇用する指導員は、1か月間仁成ファームで現場研修を受け、一通りの作業を習得し、指導にあたることとした。

【取組の成果】

- 障がい者雇用の拡大。
⇒1名を社員として雇用。
- 健常者の社会観を押し付けるのではなく、一つ一つの作業を明確化。
⇒障がい者だけではなく、全員が働きやすい環境ができた。作業中のリスク回避や効率アップにもつながった。
- 職場に一生懸命働く障害者がいる。
⇒従業員が人に対し優しく接するようになり、士気が上がり、離職率も減少。

【障がい者へ委託している作業内容】

1 搾乳舎清掃・牛舎内整備



搾乳舎清掃



搾乳機材清掃



牛舎内清掃・整備

2 搾乳補助



牛の乳拭き



ミルカー装着

3 哺育補助



子牛ハッチ清掃

【今後の展望】

- 仁成ファーム内に福祉部門を設立し、音羽協働センターの卒業生の受入れを検討。
- 両社がお互いに、出来る事をその都度検討しながら、より良い方法を模索し続ける。



明文化し分かりやすい作業環境を整備



テープで色分けし使用機具を明確化